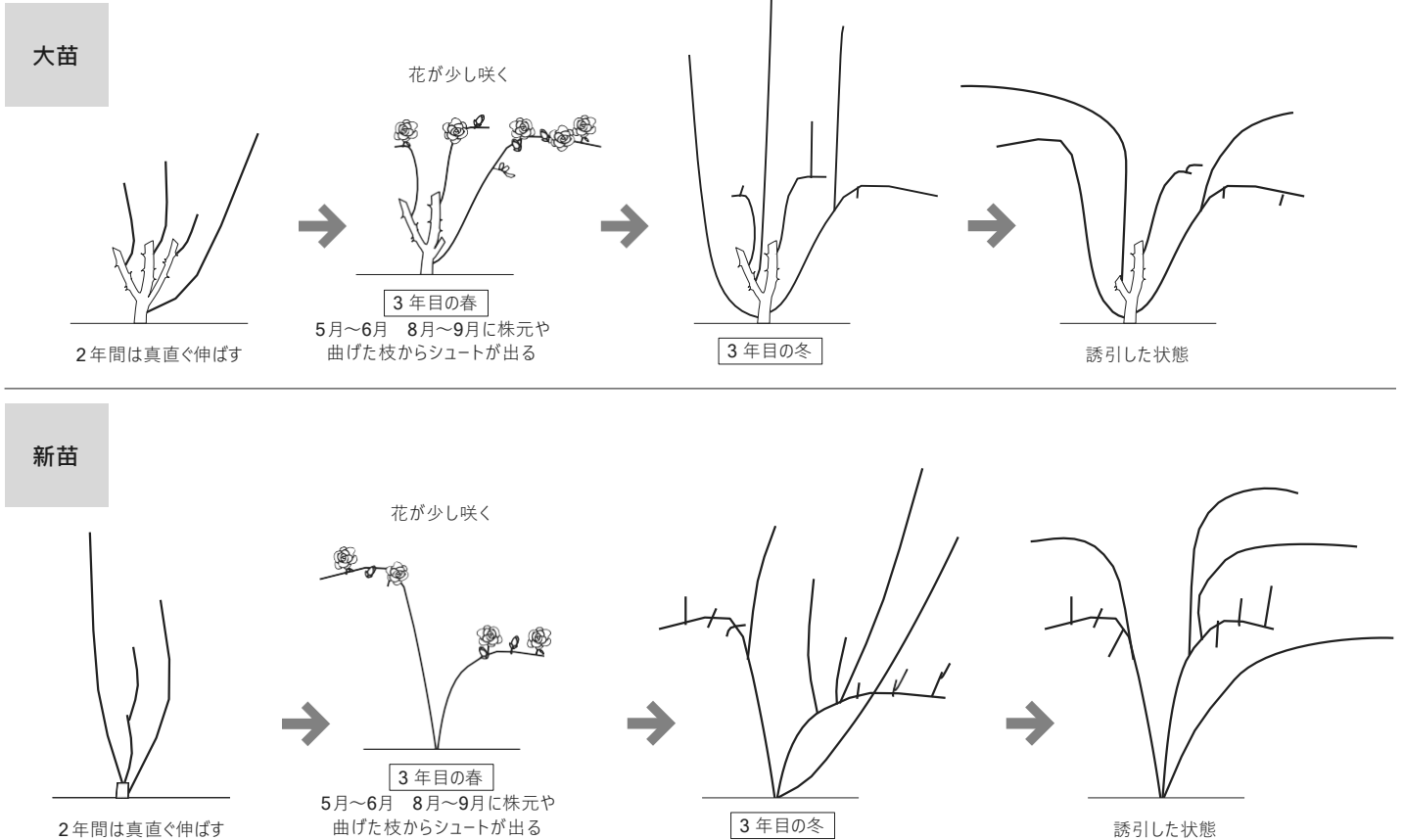


つるバラの育て方及び誘引

- ①新苗、大苗は2年間は真直ぐに伸ばす。四季咲きの品種は蕾が付くが、早めに摘んで花を咲かせないようにした方がより生育が良い。
 ②2年目の冬になると、枝もかなり多く長くなるので、アーチやトレリスなどの場合は、12月～1月にかけて、全体に花を咲かせるために横に倒したり、万遍なく配置をして、しっかりと麻ヒモやシュロナワなどで結わく。

※品種によっては、横に枝を倒しても花付きが良くならない品種や系統もある。その場合は、放射状に枝を配置して結わけばよい。



薬剤の紹介

バラで登録のある薬剤の一例です。

効果的な 薬剤散布

- 病気に対しては予防が基本。発生時期を予測して早目の対応。
- 濃度は注意書きを良く見て、適濃の散布。
- 気温が高い(25℃以上)時は涼しい朝晩に、寒いときは気温が上昇した10時頃散布がよい(薬害)。
- 病気や害虫に合った散布回数や、散布方法をする。《例》ダニ：葉の裏によくかかるように/うどんこ病：うどんこ状のカビを洗い流す
- 薬散は数種用意して、同じ薬剤を連続散布しないこと(抵抗性)。

	病虫害	備考	適用薬剤 ※ ()内は成分名
殺菌剤	黒星病	特に5月以降に多く発生。葉に黒斑ができ黄化し、落葉する。水により病気が広まるので降雨後の葉裏への薬剤散布を重点的に行う。	STサプロー乳剤(トリホリン) サルパトールME(テトラコナゾール) ジマンダイセン(マンゼブ)
	うどんこ病	3月下旬以降若い茎葉、蕾に発生。うどん粉をまぶしたようになる。症状がはげしい場合、患部を切り捨てた後薬剤散布をすると効果的。	アンピルフロアブル(ヘキサコナゾール)) カッパー-シン水剤(塩基性塩化銅、カスガマイシン塩酸塩)
	灰色かび病 (ボトリチス病)	花がボール状に固まって開かなくなる。散った花弁が若い茎に付いてそこから発病し、茎を枯らす時もある。雨の後被害が拡大する。病状がはげしい場合は患部を切り通気をよくし雨の前に薬を散布する。	フルピカフロアブル(メバニピリム)
	べと病	葉が緑のままパラパラと散る、葉にしみ状の紫褐色の病斑がでる。生育期に急な冷え込みがあった時は水やりを控える。	エムダイファー(マンネブ)
殺ダニ剤	ダニ	発生前の予防散布が好ましい。葉の裏に付くので葉裏に薬剤がかかるように散布すること。ダニに抵抗性をつけないために、2~3週間薬剤を交互に用いると効果的。非常に多くの植物に発生、周囲の草木もチェック。雨の少ない高温期に大発生しやすい。	コテツフロアブル(クロルフェナビル) コロマイト水和剤(ミルベメクチン) テルスター水和剤(ピフェントリン)
殺虫剤	スリップス	1~2mmの細長い虫が花中にいるので薬が効きにくい。他の草花からも移る。	ベニカR乳剤(フェンプロパトリン)
	アブラムシ	新芽につき、よく増える。ほうっておくと、葉にスス病が付き黒くよごれる。	オルトラン(アセフェート)
	イモムシ・ケムシ	多くの種類があるがヨトウムシなどは虫が小さいうちに薬を散布しないと効果が劣る。	スミチオン(MEP)
	カミキリムシ ^{※1} ・ コガネムシ	(カミキリムシ)株元に木クズが出ている。株が枯死することもある。 (コガネムシ)幼虫は根を食害、成虫は花・蕾を食害。	ダントツ(クロチアニジン) ベニカ水溶剤(クロチアニジン) ^{※2}

※1 ...カミキリムシの成虫は散布退治できますが、幼虫(テッポウムシ)はこれらの薬剤散布では対処が難しいと考えます。

※2 ...ベニカ水溶剤は、株元に灌注します。